

## 3.2. spam 対策

電子メールは、コミュニケーション手段の一つとして不可欠な物となっています。これに伴い spam メールに関する問題が大きな社会問題となっています。spam メールとは、受信者の意図を無視して無差別かつ大量に一括して送信される電子メールを指し、UCE (Unsolicited Commercial E-mail)、UBE (Unsolicited Bulk E-mail) とも呼ばれています。電子メールは、通常の郵便など他のコミュニケーション手段と比べると、送信者側があまりに安易に多くの相手に対して送信でき、送信者側の負担が金銭的にも時間的にも労力的にも極めて少ない、といった特徴が挙げられます。そのため spam メールは非常に多く、世界の spam メール送信数は一日に 550 億通、インターネットを流れる電子メールの 95%以上が spam メールであるという報告もあります。今後もインターネットの普及に伴い電子メールの流通量は増え続け、spam メールによる被害も増加の一途を辿るでしょう。

spam メールから引き起こされる具体的な被害としては、メールサーバの CPU、ディスクやネットワークリソースを浪費するため、メールの受信に時間（通信費用）がかかり、メールボックスが一杯になり、spam でないメールも受け取れなくなること、受信したメールの分類・削除に手間がかかることや、それにともない重要なメールの見落としもおこるかもしれないことがあります。また、spam メールを原因とした間接的な被害として、発信者詐称による spam メール発信者との誤解や、そのための苦情メールへの対処、詐称されたドメイン名の信頼性の低下とその後の通常メールも受信拒否される危険性等の間接的な被害もあります。詐称された発信者へのエラーメール(バウンスメール)の集中も問題になります。短期間に大量の spam によりエラーメールが同一利用者あるいは同一ドメインに送られることになれば、それは事実上のサービス不能攻撃 (denial of service attack) となってしまいます。

spam 対策は、メールを受信した個人が行うもの、メールサーバを運用する会社/大学/ISP 等が行うもの、法制度等があり、それらを組み合わせて spam を減らしていく努力が続けられています。利用者個人が行う spam 対策は、メールの内容からコンテンツフィルタによる自動分類や、spam を見ても返信しない、添付の URL を開かない等、受信後の spam に対する処理や対応が中心になります。一方、メールサーバ管理者が行う対策は、spam を送らない、受け取らないという、spam が存在しにくい環境を実現する spam 予防の性格が強いものになっています。今回は、メールサーバ管理者が行う spam 対策を中心に検討し、資料にまとめました。